

# 任命責任

瑞浪北中学校生徒会規約の中に、次のような記述があります。「生徒会執行部は八名の専門委員長を指名し、その責任を負います。」

指名ですので、「あなたにやってもらいたい」という人物を執行部が決めるわけです。「あの人には任せられない」と周りの人たちがが思っているとしても、執行部が「この人にやらせる」と言えば、それが決定となります。

北中のトップ五名（会長、副会長2、下級生副会長、書記）が自分たちの目指す北中を実現するために、その手足となってそれぞれの分野で力を発揮する人物を選ぶこととなります。国の組織で言えば、執行部は内閣総理大臣、専門委員長は大臣だと言えるでしょうね。

後期の執行部が決まりました。そして、その執行部は専門委員長を立候補で選出しようとしています。立候補が複数の場合は、その思いややる気を確かめた上で、執行部五人で決めるようです。

「指名」ということであれば、立候補を待たず、執行部がやってほしいと思う人をダイレクトに指名すればよいわけです。恐らく、それでは本人のやる気を大切にしたいから、立候補を募るといふ形にするのだと思います。

いずれにしても、「この人にやってもらいたい」という決定は執行部の意思になるわけですので、「選んで終わり」ということには絶対にならないようにしてもらいたいものです。

選ぶだけ選んで、「後は任せるよ」という放任型のやり方は、非常に無責任だと私は思います。任せた以上は、その人のやり方を尊重しながらも、過程や結果をしっかり見届け、適切なアドバイスや叱咤激励、時にはやる気の出る評価をしてやらなければなりません。それが、指名した側の責任です。

「長」がつく立場の者には、厳しい目が注がれるということも忘れてはなりません。「長」がつくということは人の上に立つということとです。それにふさわしくくない言動や態度があった時には、その人自身が批判されるだけでなく、その人たちを「長」に指名し、任命した執行部が責任を問われます。

だらしない格好で登下校する。あいさつしない。時間を守らない。整理整頓できさない。言葉遣いが乱れている。仲間を大切にしない。授業に集中できない。掃除に真剣に取り組めない。……こういう姿が周りに疑問を感じさせます。そして、任命した側の責任が問われます。これが「任命責任」というものです。

何だか悲観的なことばかりを書きました。ごめんなさい。正直言って、今の北中なら大丈夫だと思います、しかし、社会の中には、そういうことで物議を醸している現実があります。大人として情けない事実です。そうならないようにね。

（九月二十八日 記）